

20 フレアースカートの伸びについて (第2報)

名古屋市立女子短大 住田八重子
高橋 春子
河合 裕子

1 フレアースカートを着用する際、斜布の部分が伸び、裾線が不揃いになって見苦しいため、裁縫上注意すべき点を考察した。第1報において夏季用布地について報告したので今回は毛織物を主として実験し、尚角度別による伸びの実験も行った。

2 (1) スカートの着用実験

毛織物10種、化繊織物3種、夏生地3種、計16種の布で中央縫目を 45° 及び 30° の四枚接ぎのフレアースカートを作製した。又ローン及びグログランを用いて角度別のスカートを各々八種類作製した。(丈65cm, 胴囲62cm) 着用時間及び動作は一定とし、一週間着用して伸びを毎日測定した。

(2) バイヤス布の伸びの測定

スカートに用いた布地を幅5cm, 長さ65cmとし、各々 45° と 30° の斜布にとり、二種の重量を加えて垂下し、時間の経過と共に長さの増加を測定した。

3 フレアースカートを製作する際、以上スカート及びバイヤス布の伸びの結果に基いて、市販されている布の性状(原料, 密度, 番手, 厚さ, 平面重, 加工方法等)及び斜の度合によりいかに考慮すべきかを実験考察した。